

第16回 平成29年度 遺跡調査報告会

2017年11月11日 土 午後2:00～4:00

展示・報告遺跡

- ◆ ^{いちおうじ}一王寺(1)遺跡 (八戸市是川 縄文時代) 横山 寛剛
- ◆ ^{くまのどう}熊野堂遺跡 (八戸市長根 平安時代) 宇部 則保
- ◆ ^{にいだふるだて}新井田古館遺跡 (八戸市新井田 中世) 苧坪 祐樹
- ◆ ^{いかずち}雷遺跡 (八戸市中居林 近世) 村木 淳

展示遺跡

- ◆ ^{まつながね}松長根遺跡 (八戸市田面木 弥生時代)



発掘調査の様子(熊野堂遺跡)



発掘調査の様子(新井田古館遺跡)



八戸市埋蔵文化財センター
是川縄文館

〒031-0023 青森県八戸市是川字横山1
TEL 0178-38-9511 FAX 0178-96-5392
<http://korekawa-jomon.jp/>

◆会場：是川縄文館 体験交流室

◆主催：八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

平成 29 年度発掘調査遺跡一覧

	No	遺跡名	時代／種類	所在地	調査原因	調査面積	調査期間
試掘調査	1	はちのへじょう 八戸城跡(38地点)	縄文・弥生・古墳・近世・近代／城館跡	内丸	事務所建築	28㎡	4月10日
	2	ふなど うえ 舟渡ノ上遺跡	縄文／散布地	大字鮫町	個人住宅建築	29㎡	4月11日
	3	ねじょう 根城跡下町	縄文・飛鳥・奈良・平安・中世／城館跡	大字根城	個人住宅建築	6㎡	4月13日
	4	まつながね 松長根遺跡	縄文／散布地	大字田面木	個人住宅建築	6㎡	4月13日
	5	くしひき 櫛引遺跡(7地点)	縄文・奈良・平安・中世・近世／集落跡・城館跡	大字櫛引	太陽光発電設備設置	150㎡	4月18日～ 4月21日
	6	たてひら 館平遺跡	縄文・平安・中世／集落跡・城館跡	大字新井田	個人住宅建築	26㎡	4月24日
	7	こざわ 小沢遺跡	縄文／散布地	大字鮫町	個人住宅建築	29.5㎡	4月27日
	8	櫛引遺跡隣接地	縄文・奈良・平安・中世・近世／集落跡・城館跡	大字櫛引	範囲確認	30㎡	4月28日
	9	いかずち 雷遺跡(5地点)	縄文・平安／散布地	大字中居林	長芋作付け	615㎡	5月23日～ 6月16日
	10	雷遺跡	縄文・平安／散布地	大字中居林	個人住宅建築	19.5㎡	5月30日
	11	にいだふるだて 新井田古館遺跡(31地点)	縄文・奈良・平安・中世・近世／集落跡・城館跡	大字新井田	集合住宅建築	178㎡	6月22日～ 6月30日
	12	八戸城跡	縄文・弥生・古墳・近世・近代／城館跡	内丸	個人住宅建築	25.5㎡	6月26日
	13	きつねたい 狐平遺跡隣接地	縄文・平安／集落跡	大字中居林	範囲確認	13.5㎡	6月27日～ 6月29日
	14	雷遺跡	縄文・平安／散布地	大字中居林	個人住宅建築	33㎡	7月6日
	15	たものき 田面木遺跡	縄文・弥生・奈良・平安／集落跡	大字田面木	個人住宅建築	5㎡	7月11日
	16	田面木遺跡	縄文・弥生・奈良・平安／集落跡	大字田面木	個人住宅建築	7㎡	7月20日
	17	たてひら 館平遺跡	縄文・平安・中世／集落跡・城館跡	大字新井田	個人住宅建築	5.8㎡	7月24日
	18	いちこばやし 市子林遺跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世／集落跡	大字新井田	駐車場造成等	8.75㎡	9月21日
	19	まつながね 松長根遺跡(2地点)	縄文／散布地	大字田面木	個人住宅建築	11㎡	9月29日
	20	櫛引遺跡(8地点)	縄文・奈良・平安・中世・近世／集落跡・城館跡	大字櫛引	太陽光発電設備設置	208㎡	10月2日～ 10月10日
	21	まつがき 松ヶ崎遺跡	縄文・奈良・平安／集落跡・貝塚	大字十日市	個人住宅建築	6㎡	10月6日
	22	館平遺跡(29地点)	縄文・平安・中世／集落跡・城館跡	大字新井田	個人住宅建築	14㎡	10月13日
	23	櫛引遺跡(6地点)	縄文・奈良・平安・中世・近世／集落跡・城館跡	大字櫛引	寺院建築	33㎡	10月16日
	24	八戸城跡(39地点)	縄文・弥生・古墳・近世・近代／城館跡	内丸	個人住宅建築	10㎡	10月18日
調査認	1	いちおうじ 一王寺(1)遺跡	縄文・弥生・奈良・平安／集落跡	大字是川	史跡内容確認	10㎡	10月23日～ 10月30日
本発掘調査	1	くまのどう 熊野堂遺跡	縄文・奈良・平安／集落跡	長根二丁目	道路拡幅工事	307.6㎡	4月18日～ 6月9日
	2	市子林遺跡(22地点)	縄文・平安 集落跡	大字新井田	個人住宅建築	82㎡	6月23日～ 7月3日
	3	雷遺跡(5地点)	縄文・平安／散布地	大字中居林	長芋作付け	1,600㎡	7月11日～ 9月12日
	4	にいだふるだて 新井田古館遺跡(31地点)	縄文・奈良・平安・中世・近世／集落跡・城館跡	大字新井田	集合住宅建築	調査中	8月21日～ 11月30日(予)
	5	松長根遺跡(2地点)	縄文／散布地	大字田面木	範囲確認	41㎡	10月2日～ 10月13日

報告遺跡

※ 10 月末日現在



平成 29 年度発掘調査遺跡位置図

1. 遺跡の概要

本遺跡は八戸市の中心部から南へ約 4 km の台地に位置し、新井田川の左岸に立地しています。標高約 100m の丘陵と、標高 18 ～ 44m の新井田川へ向かう緩い斜面にかけて広がっています。遺跡の南端には寺ノ沢・北から北東端には長田沢と呼ばれる沢地があります。遺跡の総面積は 32 万 6 千㎡です。

縄文時代前期から中期（今から約 6,000 年～ 4,000 年前）の円筒土器文化期を中心とした大規模な集落であり、昭和 32 年 (1957) に中居遺跡・堀田遺跡とともに「是川石器時代遺跡」として国の史跡に指定されています。

今年度は、縄文学習館の裏からは川遺跡記念碑へ向かう東西方向の道路の下がどのような地形となっていたかを確認するため、道路を縦断する南北方向のトレンチを設定し、アスファルト舗装を剥がして調査を行いました。調査地点は八戸市大字是川字中居 46-2・字一王寺 29-1・2 ほか位置し、調査期間は 10 月 23 日から 10 月 31 日、調査面積は約 10 ㎡でした。

2. 検出した主な遺構

今回の調査では昔の自然地形を確認することを目的としているため、遺構の調査は行っていません。調査区は平成 22 年度に調査した 169 トレンチと一続きとなるトレンチを設定することで、過去の調査成果を活かせるようにしました (190 トレンチ)。基本層序は以下のとおりです。

【Ⅰ層】旧表土、【Ⅱ層】黒褐色土層 (縄文晩期)、【Ⅲ層】中礫浮石^{ちゅうせり}を多量に含む黒褐色土層 (縄文前期)、【Ⅳ層】粘性のある黒褐色土層、【Ⅴ層】南部浮石を多量に含む粘土質土層 (縄文早期)、【Ⅵ・Ⅶ】八戸火山灰由来の粘土質土層。

さらにⅦ層の直下 (現地表面から約 2 m 下) で、水性堆積物とみられる砂層を確認しました。

3. 出土遺物

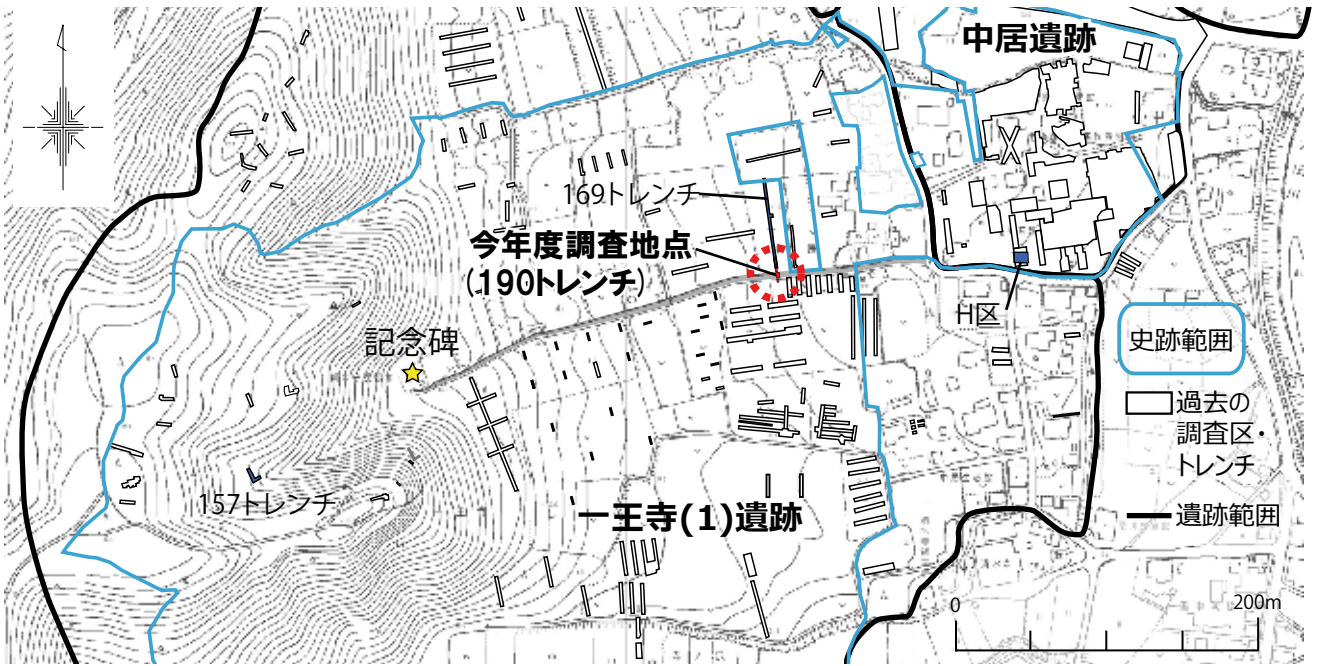
縄文時代前期・中期・晩期の土器が出土しました。このうち晩期の土器はⅡ層から出土しています。また、同じ層から磨石^{すりいし}・磨製石斧^{ませいせきふ}といった石器も出土しており、縄文晩期には中居遺跡から今回の調査区周辺まで、縄文人の活動範囲が広がっていたと考えられます。

4. まとめ

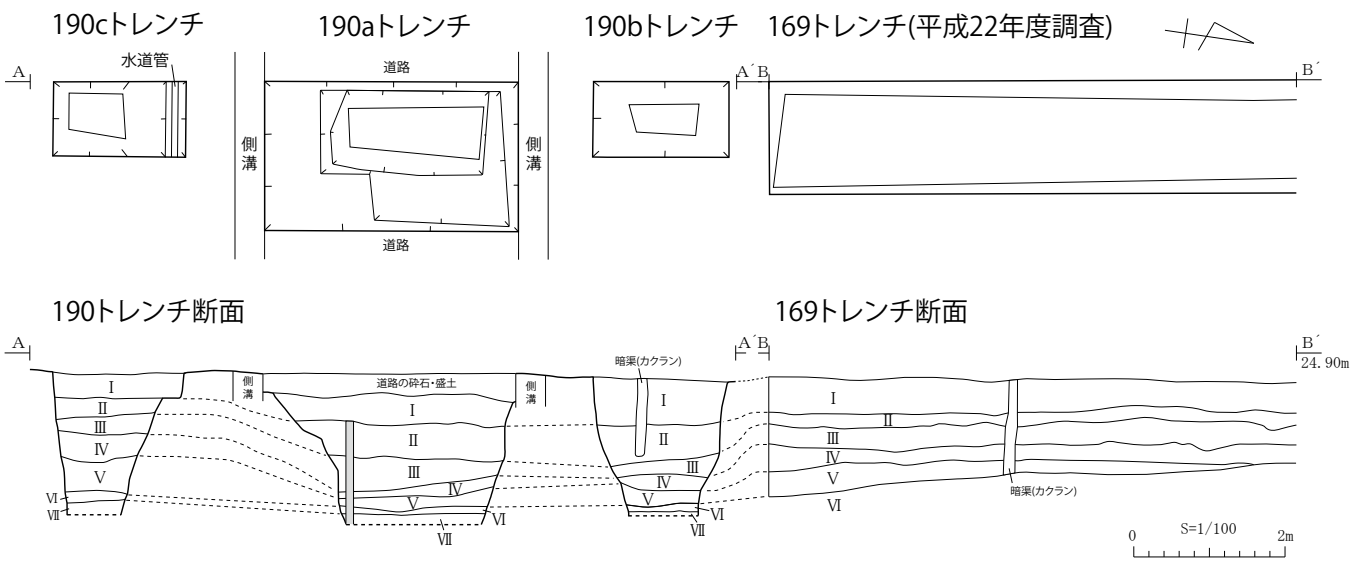
かねてより、現在の地形や水が湧きでる位置などから、本遺跡の西側丘陵から中居遺跡の低湿地 (H 区) に注ぐ水脈の存在が予想されていました。また、八戸市教育委員がこれまでに調査した 157・169 トレンチなどの調査成果から、水脈は是川遺跡記念碑へ向かう東西方向の道路の地下を流れていると推定し、そのことを確かめるため、今回の調査を行いました。

調査を計画した段階では、沢跡を V 字状や U 字状といった断面の形で捉えることができるものと予想していましたが、水が流れる地形をはっきりと確認することはできませんでした。しかし、調査のあいだ絶えず断面 (掘り下げた壁) から水が湧き出る状況から、豊富な地下水が遺跡の地下を流れていることがわかり、この水脈により中居遺跡の低湿地の漆製品や植物質遺物が保全されていることが確認できました。

今回の調査で得られた成果は、今後、遺跡の水がかれないように保護するために必要であり、遺跡の景観を復元するためにも非常に重要なものです。(横山 寛剛)



一王寺(1)遺跡 調査地点位置図



190aトレンチ (東から)



190bトレンチ (東から)



190cトレンチ (東から)

1. 遺跡の概要

本遺跡は、馬淵川の河口から約5km内陸に入った右岸にあり、標高16mほどの低位段丘先端につくられた古代の集落跡です。八戸市教育委員会では、これまで5つの地点を発掘調査し、なかでも広い範囲を対象に行った昭和62(1987)年の第1地点、平成26(2014)年の第2地点の発掘調査では、平安時代の竪穴建物跡、土坑、溝跡、鍛冶炉などが多数見つかりました。竪穴建物だけをみても両地点合わせて約5,700㎡の範囲から167棟検出されています。特に10世紀後半の集落は竪穴建物、土坑などの作り替えが著しく、継続した定住生活の様子が明らかとなりました。また、この時期の集落の南側には大きな溝も巡るようになります。

食器の中心は土師器の坏や甕です。五所川原窯跡で作られた須恵器の壺なども貯蔵用に使われています。鉄器には武器、農耕具、馬具などがあり、集落内の鍛冶炉で製作されたと考えられます。穀類(オオムギ)、貝(ウバガイ)など食生活や生業活動の一端をうかがわせる資料も出土しており、馬や牛がいたこともわかっています。今回報告する第6地点の発掘調査は、歩道建設に伴い平成29(2017)年4月18日から5月31日まで実施したものです。発掘調査面積は307.6㎡でした。

2. 検出した主な遺構

平安時代の竪穴建物跡14棟、土坑39基、溝跡4条、鍛冶炉5基を検出しました。竪穴建物は一辺2.5～5m前後の方形や長方形です。竪穴建物の南、北、東にカマドがあるものと、ないものがあります。竪穴建物のほとんどは、廃棄した後、ロームブロックのほか灰や焼土などで人為的に埋め戻されています。土坑は円形・楕円形・方形があり、直径50～240cm、深さ5～100cmと規模はばらばらです。何に使われたかよくわかりませんが、土坑も人為的に埋め戻されたものが大半です。溝はいずれも南西～北東方向にのびるもので幅40～130cm、深さ20～85cmです。集落の区画のためのものと思われる。鍛冶炉は調査区北側からまとまって見つかりました。円形、楕円形で大きさは径40cmほどのものと、100cmの大きなものがあります。炉壁の粘土がわずかに残っているものもみられました。近くの土坑には鍛冶作業の時に生じる鍛造剥片とよばれる薄い鉄のかけらが鉄滓とともに廃棄されています。

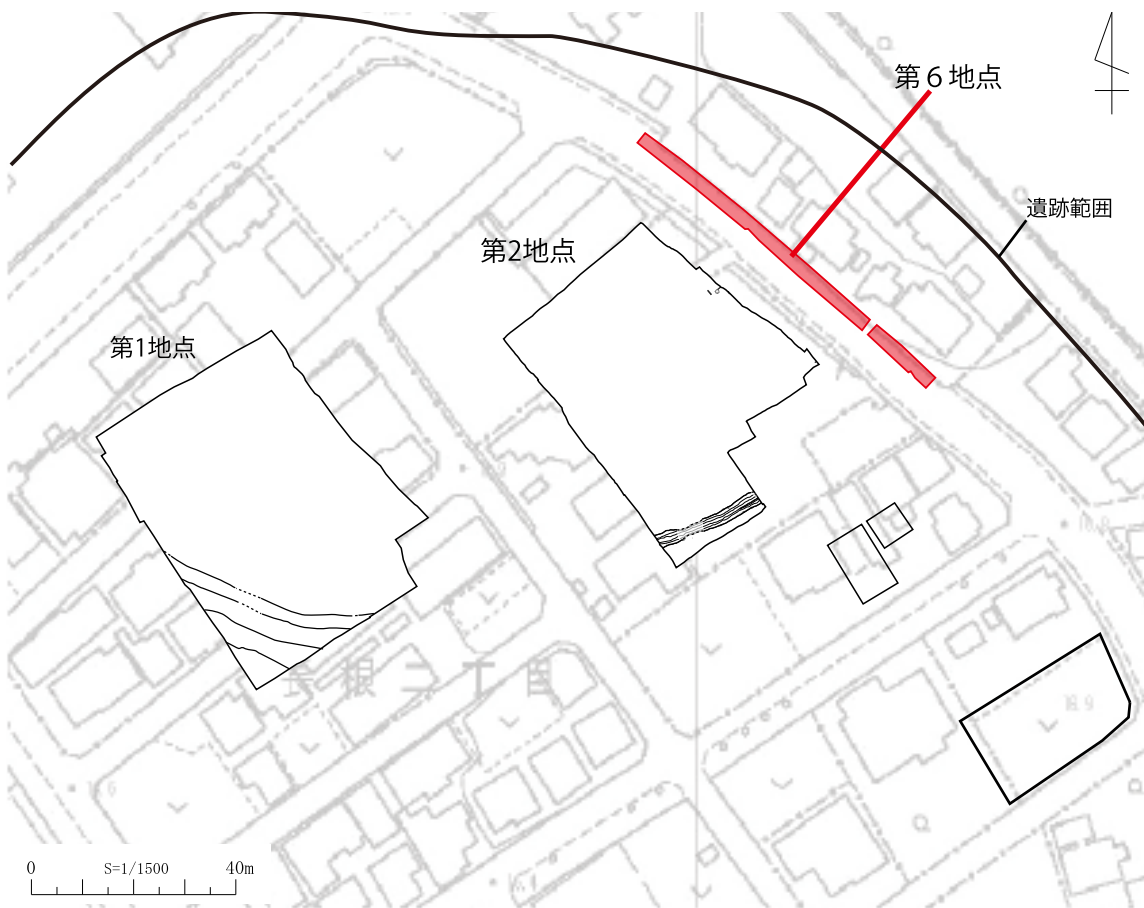
3. 出土遺物

遺物は、土師器、須恵器、緑釉陶器、鉄製品などのほか鍛造剥片・鉄滓、轆の羽口などの鉄器製作に関わる遺物や獣骨、穀類などがみつかりました。土師器には坏と甕があり、灯明に使われた坏も認められます。須恵器には五所川原窯跡で焼かれた壺があり、刻書がみられます。緑釉陶器は八戸市内の遺跡では初めての出土例です。近江(滋賀県付近)の窯で生産され、本遺跡まで運ばれてきたものです。穀類には土坑から出土したイネがあります。

4. まとめ

古代集落である熊野堂遺跡では、10世紀後半に「環濠集落」の形をとるようになり、農耕、馬・牛の飼育、鉄器生産などの生業活動が行われています。耕地は馬淵川沿いの沖積地や遺跡のある平らな場所が利用されたのでしょう。また本遺跡は河川を利用し内陸部、沿岸部に移動しやすい立地にあり、交易・交流の拠点でもあったと思われます。その意味で第6地点から出土した緑釉陶器は、熊野堂遺跡の人たち、すなわち古代エミシと呼ばれたひとたちが広い世界とつながっていたことを示しています。

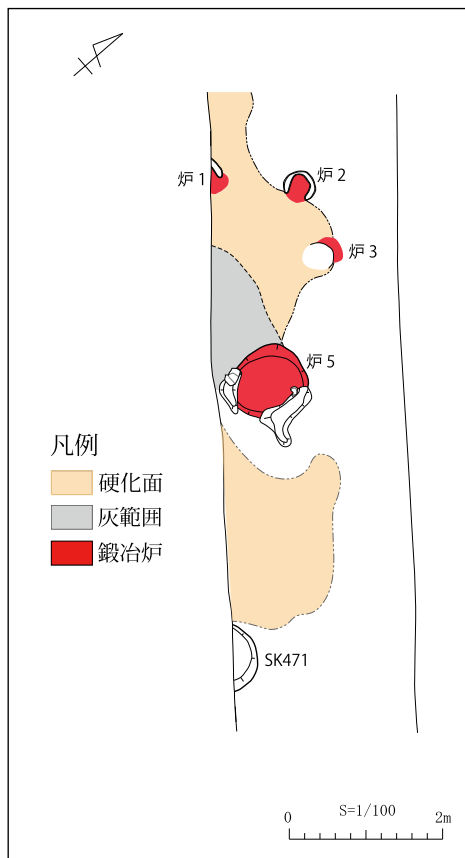
(宇部 則保)



熊野堂遺跡 調査地点位置図

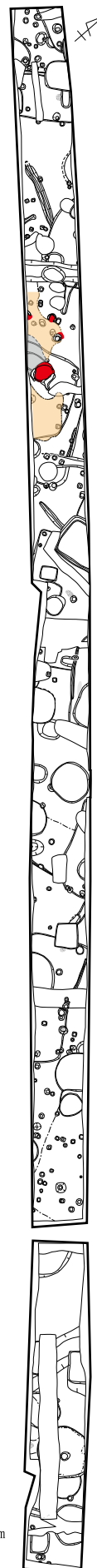
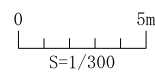


緑釉陶器皿（底部）



鍛冶炉跡（鉄器製作関連遺構）

熊野堂遺跡 第6地点遺構配置図



1. 遺跡の概要

本遺跡は、八戸市の中心部から南東に約 3km、八戸市南東部の標高 4～10m の新井田地区に位置します。これまでの調査で、縄文時代・弥生時代・古代・中世・近世の各時代のものがみつかり、現在と同じように、当時の人びとにとっても住みやすい場所だったと思われます。

本遺跡は、土塁や堀があること、遺跡の南約 750m の丘陵に新田氏の居城とされる新田城跡（館平遺跡）が位置することから、根城南部氏の最有力家臣である新田氏に関係する館跡である可能性が古くから指摘されてきました。八戸市教育員会では、平成 2(1990) 年から今年度までに 31 地点の発掘調査を行っており、本遺跡の様相が少しずつ明らかになってきています。

2. 検出遺構

本遺跡の北側半分が、中世から近世にかけての城館であり、周囲に土塁と堀を巡らせた単独の曲輪であったとみられます。発掘調査を開始した平成 2(1990) 年には、すでに東から南側にかけての土塁は失われていましたが、南側に曲輪の正門である大手口があったと考えられています。

これまでの発掘調査の成果により、曲輪内部を南北や東西に分ける堀跡が検出されており、この構築状況から大きく 4 つの段階があったことがわかっています。

【Ⅰ期(15 世紀頃)】曲輪中央を南北に、曲輪北半を東西に分ける堀跡で区画が行われた時期。

【Ⅱ a 期(15 世紀中葉～16 世紀)】土塁・堀跡が曲輪周囲に、また曲輪を大きく南北に区画する堀跡が構築された時期。

【Ⅱ b 期(16 世紀末葉～)】曲輪を南北に分ける堀跡が埋め戻された後に、主殿級の大型掘立柱建物跡が構築される時期。

【Ⅲ期(17 世紀後半～)】曲輪内の館跡が一旦廃絶された後、掘立柱建物などがつくられる時期。

今回の第 31 地点(調査面積 1,460 m²)では、掘立柱建物跡を構成する柱穴群に加えて、中世から近世の竪穴建物跡が多く検出されたことが注目されます。検出した竪穴建物跡は 17 棟を数え、西隣の第 28 地点(調査面積 2,035 m²)の 5 棟と比較すると、明らかに多いことがわかります。

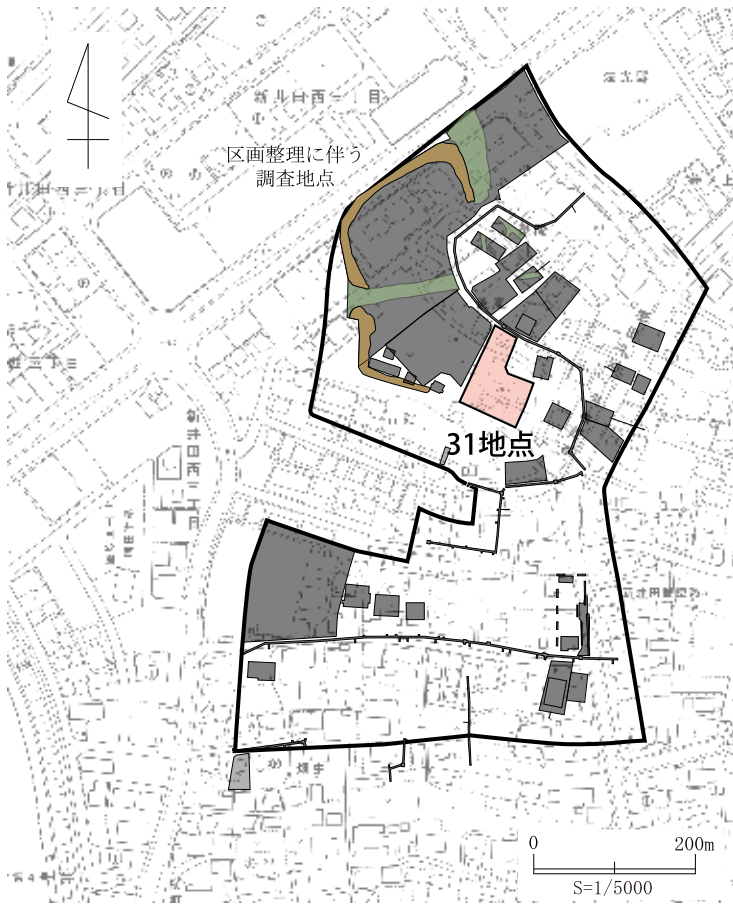
中世から近世の竪穴建物跡は、居住施設ではなく倉庫や工房に使用されたものとみられます。これまで竪穴建物跡は、北側の曲輪では縁辺部から多く検出されています。このことから、竪穴建物跡が多く検出された第 31 地点は、南側の曲輪のうち南東部に当たると考えられます。

3. 出土遺物

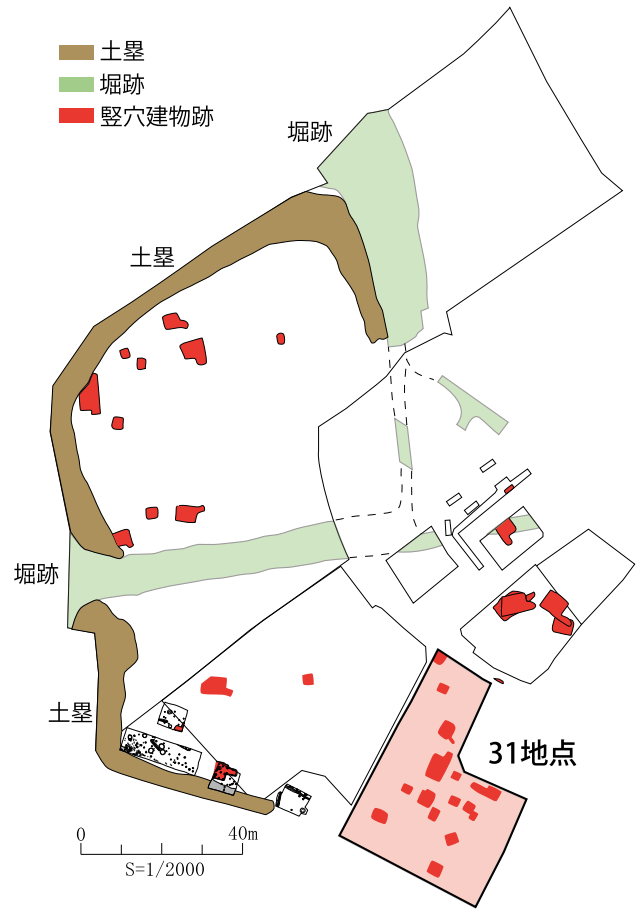
陶磁器・土器、土製品(埴埴など)、石製品(石臼など)、鉄製品(釘・鉄鉗など)・鉄滓・銭貨、動物遺存体(貝類・魚骨など)が出土しています。陶磁器は、およそ室町時代から安土・桃山時代にあたる 15～16 世紀後葉の中国産青磁瓶・白磁皿・染付皿、瀬戸美濃産天目茶碗・皿と、江戸時代にあたる 17 世紀後葉以降の肥前産染付皿・碗などがあります。なかでもわずかな出土ではありますが、宴会用の酒器とみられる輸入陶磁器瓶類や茶会で使われる天目茶碗などの威信財は、高い階層の居住者がいたことを物語っています。

4. まとめ

今回の調査で数多く検出された竪穴建物跡の時期を整理することで、曲輪内の空間利用の変遷がさらに明らかになるとみられます。また、魚骨や貝から当時の食生活、鑄鉄の埴埴や鍛冶の鉄鉗といった道具や鉄滓から、曲輪内の生業の様子がわかってきました。(苧坪 祐樹)



今年度調査地点（第31地点）位置図



中世から近世の城館跡遺構配置図



1. 遺跡の概要

本遺跡は、市の中心部から南東に 2.4km の地点に位置し、標高 15 ～ 30 m の段丘上に立地します。八戸市教育員会では、これまで 4 地点の調査を行っており、古代の竪穴建物跡、縄文時代中・後期の土器破片・石器などを確認しています。

今年度調査を行った第 5 地点は、遺跡の東側に位置し、標高 17.5 ～ 21.5 m の緩やかな斜面に立地します。今回の調査は長芋・牛蒡作付けに伴うもので、5 月 23 日から 6 月 16 日にかけて試掘調査を行いました。その結果、古代の竪穴建物跡や近世のお墓が確認され、約 2,600 m² が発掘調査の対象となりました。このうち、今年度は 7 月 11 日から 9 月 12 日にかけて約 1,600 m² を対象に本発掘調査を実施しました。残りの約 1,000 m² は来年度に調査予定です。

2. 検出遺構

【縄文時代】調査区南側からフラスコ状土坑 1 基 (SK13)、溝状土坑 15 基 (MP1 ～ 15) を検出しました。

【古代】調査区中央から北側で竪穴建物跡 3 棟 (SI5・7・8、SI13 は来年度調査予定) 検出しました。このうち SI5 は出土遺物から奈良時代のものと考えられます。SI8 は現代の削平・攪乱を受け、貼り床しか残っていませんでした。溝跡 (SD1) は出土遺物から古代と考えられます。

【近世】調査区中央より北側に、人が埋葬されたお墓が 3 基 (SK7・9・10) 検出されました。また、人骨は検出されませんでした。SK6 は副葬品とみられる出土遺物 (銭貨)、SK8 は土坑の形からそれぞれお墓の可能性があります。調査区中央から竪穴建物跡 1 基 (SI6) が検出され、南側に出入り口が認められました。SI9 ～ 11 も竪穴建物跡と考えられ、来年度調査予定です。調査区南側からは掘立柱建物跡と井戸を検出しました。掘立柱建物跡は、何度か建て替えが認められます。井戸は 5 基 (SE1 ～ 5) 検出しました。

3. 出土遺物

【古代】SI5 竪穴建物跡から奈良時代の土師器^{はじきつき} 坏・甕^{かめ}、土製紡錘車^{ぼうすいしゃ}、土製勾玉^{まがたま}、SD1 溝跡から土師器甕が出土しています。

【中世】SK6 土坑の埋土から、鉄釘・銭貨 3 枚が出土しました。銭貨のうち 1 枚は、1068 年に初めて铸造された北宋銭の熙寧元寶^{きねいげんぼう}であることがわかりました。このため、SK6 土坑は SK7 ～ 10 土坑よりも古い時期に属する可能性があります。

【近世】SK7・9 土坑から煙管^{きせる}・鏡などの青銅製品、和鋏^{わばさみ}などの鉄製品のほか、木製の櫛 (SK9 のみ) が出土しています。SK7・9 の出土品は、出土状況から木箱に納められていたものと考えられます。また、掘立柱建物跡の柱穴から、陶磁器、鉄製品、銭貨などが出土しています。

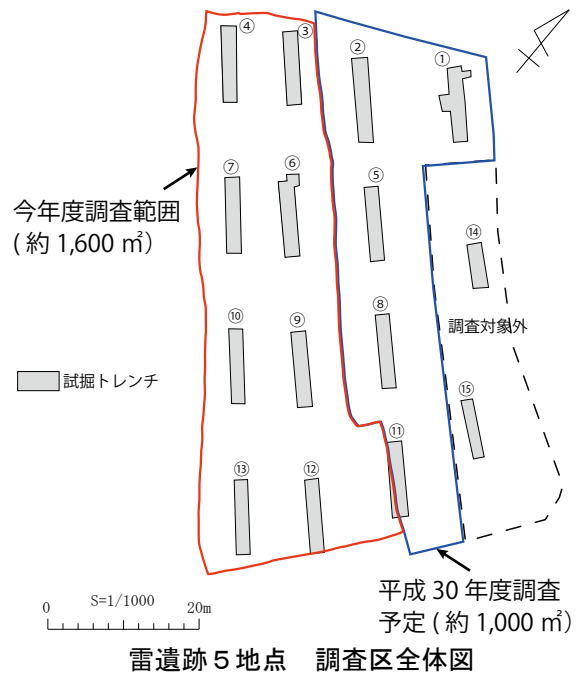
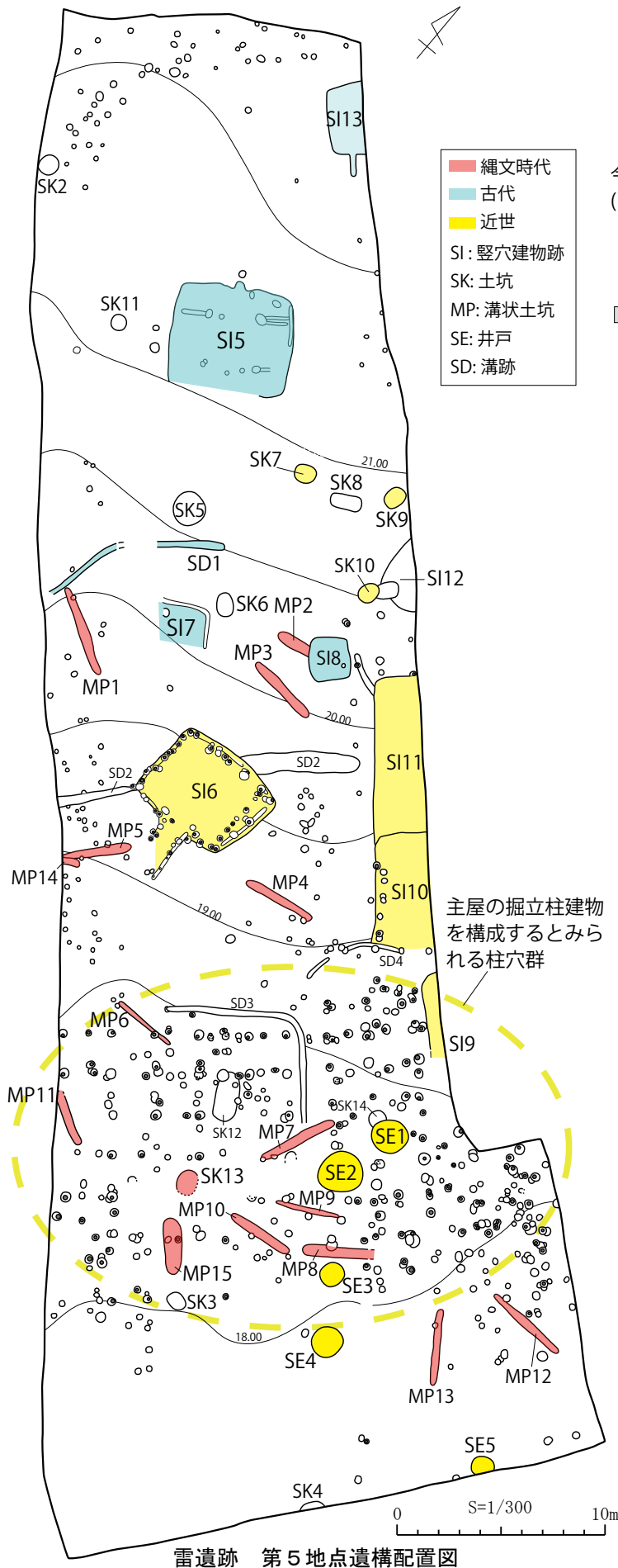
4. まとめ

本調査区において、縄文時代の溝状土坑 (陥し穴^{おと}) が数多く確認されたことから、当時は狩猟場であったと考えられます。

古代は、奈良時代の竪穴建物跡や溝が検出され、集落が営まれていたことが分かります。

江戸時代は、南側の低い方に掘立柱建物 (主家^{おもや})・井戸が設けられ、その裏に竪穴建物跡 (倉庫)、北側の最も高いところに墓地がつくられるという、当時の屋敷構造を知ることができました。また、掘立柱建物跡は何度か建て替えられていることから、長年に渡り居住していたものと考えられます。

(村木 淳)



SI6 竪穴建物跡 (南から)



SK9 土坑墓 副葬品出土状況

第 16 回 八戸市遺跡調査報告会次第

- 13：00 出土品展示室開場
13：30 報告会受付開始
14：00 開会挨拶
14：05 平成 29 年度調査概要
14：15 調査成果報告 一王寺 (1) 遺跡
14：35 調査成果報告 熊野堂遺跡
14：55 10 分休憩
15：05 調査成果報告 新井田古館遺跡
15：25 調査成果報告 雷遺跡
15：45 質疑応答
15：55 閉会挨拶
閉場 (出土品展示室は 16：30 まで)

